

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社F U J I 本社駐車場	階数	地上4階
建設地	愛知県知立市山町茶碓山19-1番地	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年11月9日
敷地面積	21,180 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社GUIS横須賀
建築面積	1,718 m <sup>2</sup>	確認日	2018年11月9日
延床面積	6,860 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社玉井設計玉井



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

機能性: N.A. 耐用性: 2.9 対応性: 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.4

生物環境: 1.0 まちなみ: 1.0 地域性: 2.5

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の: N.A. 自然エネ: N.A. 設備システ: N.A. 効率的: 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源: 3.0 非再生材の: 2.5 汚染物質: 4.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

地球温暖化: N.A. 地域環境: 2.9 周辺環境: 3.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">10.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体				
<b>Q 建築物の環境品質</b>																	
<b>Q1 室内環境</b>																	
<b>1 音環境</b>																	
1.1 室内騒音レベル																	
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能																	
2 界壁遮音性能																	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音																	
<b>2 温熱環境</b>																	
2.1 室温制御																	
1 室温																	
2 外皮性能																	
3 ソーン別制御性																	
2.2 湿度制御																	
2.3 空調方式																	
<b>3 光・視環境</b>																	
3.1 昼光利用																	
1 昼光率																	
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備																	
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御																	
3.3 照度																	
3.4 照明制御																	
<b>4 空気質環境</b>																	
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質																	
4.2 換気																	
1 換気量																	
2 自然換気性能																	
3 取り入れ外気への配慮																	
4.3 運用管理																	
1 CO <sub>2</sub> の監視																	
2 喫煙の制御																	
<b>Q2 サービス性能</b>																	
<b>1 機能性</b>																	
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性																	
2 高度情報通信設備対応																	
3 バリアフリー計画																	
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観 (天井高)																	
2 リフレッシュスペース																	
3 内装計画																	
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計																	
2 維持管理用機能の確保																	
<b>2 耐用性・信頼性</b>																	
2.1 耐震・免震・制震・制振																	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	
2 免震・制震・制振性能																	
2.2 部品・部材の耐用年数																	
1 躯体材料の耐用年数																	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性																	
1 空調・換気設備																	
2 給排水・衛生設備																	
3 電気設備																	
4 機械・配管支持方法																	
5 通信・情報設備																	
仕上材 PB 更新間隔20年																	

<b>3 対応性・更新性</b>				2.9	0.48			-	2.9
3.1 空間のゆとり				2.8	0.31			-	
1 階高のゆとり				2.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.18	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		-	-			-	
2 給排水管の更新性				-	-			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.33			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性				-	-			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.67			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57			-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		1.0	0.40			-	1.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-			-	2.9
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-			-	-
2 自然エネルギー利用				-	-			-	-
3 設備システムの高効率化				-	-			-	-
4 効率的運用				3.0	1.00			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30			-	2.9
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水				-	-			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63			-	2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤仕様の断熱材設置無	5.0	1.00			-	
3 冷媒				-	-			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30			-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①		-	-			-	-
2 地域環境への配慮				2.9	0.50			-	2.9
2.1 大気汚染防止			燃焼機器設置無	5.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	大きな駐車スペースおよびスムーズな出入りができる出入口を備え	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.50			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:10.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社F U J I 本社駐車

計画上の配慮事項	
総合	立体駐車場として、広い駐車スペースや大きな出入口を確保している。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	ゆとりある空間を提供している。
Q3 室外環境(敷地内)	広い空間を有している。
LR1 エネルギー	LEDランプを多く設置し、省エネに努めている。
LR2 資源・マテリアル	発泡剤を用いた断熱材を使用していない為、環境負荷がすくない。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を設置していない為、大気汚染物質を放出しない。
その他	特になし。